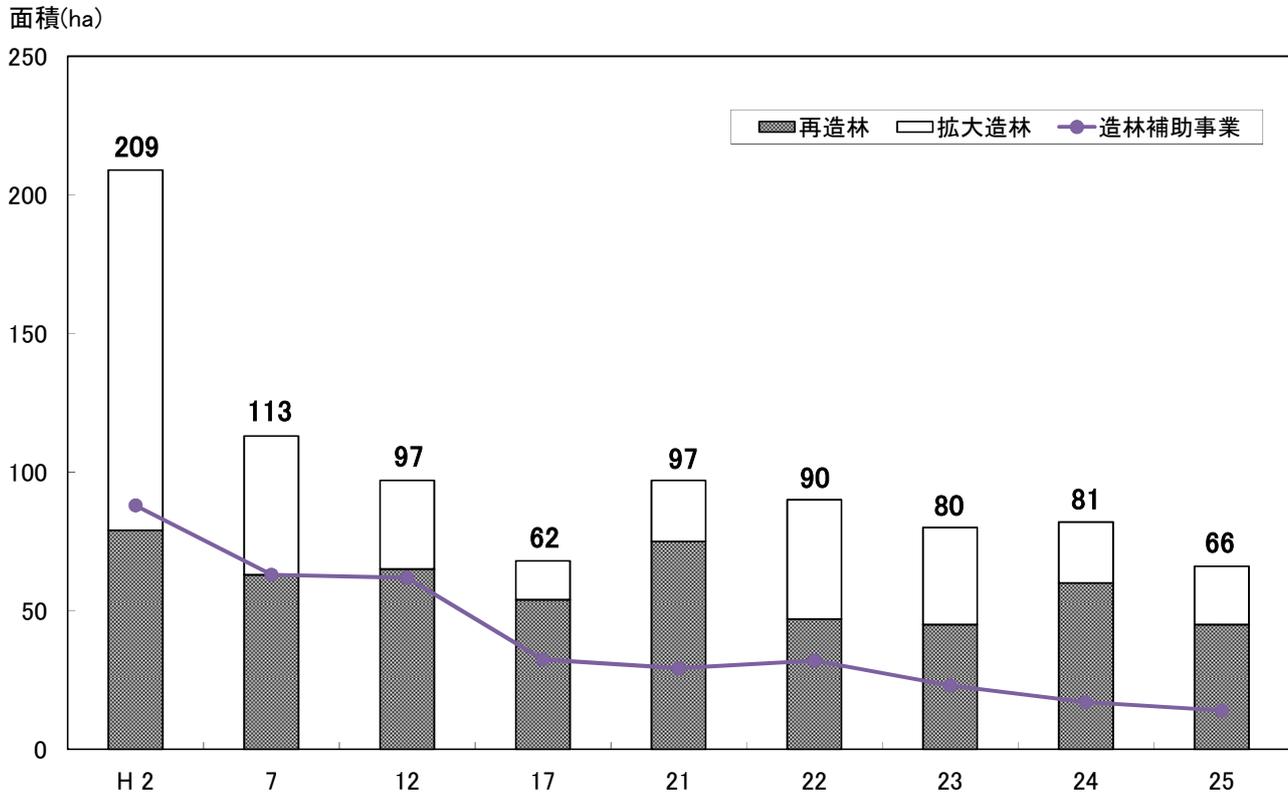


## 2. 森林の整備

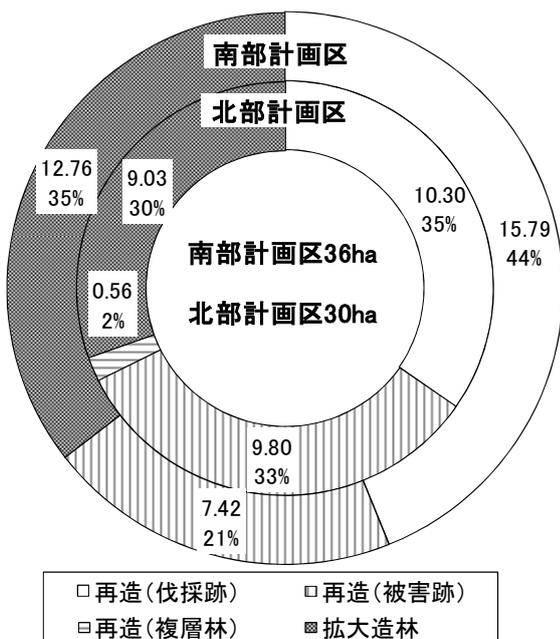
### (1) 人工造林

—造林面積は減少傾向—

造林種別人工造林面積



地域別人工造林面積 (ha)



本県の造林面積は平成17年度まで大幅に減少した後、平成20～21年度に増加したが、再び減少の傾向にあり、25年度の造林面積は66haであった。

この内、補助造林面積は14haであり、前年度に比べ3ha減少している。なお、人工造林面積に占める補助造林面積の割合は21%となっている。

造林種別の内訳は、再造林が前年度より16ha減少し44ha、拡大造林が前年度と同じ22haとなっている。

25年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区は前年度より18ha減の30haであり、その内訳は、再造林が21haと70%を占めている。

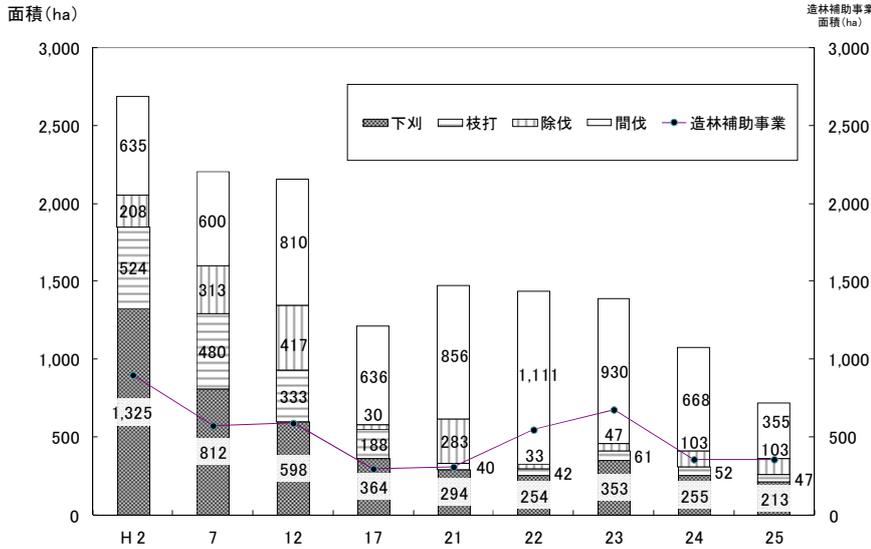
一方、南部計画区は前年度より2ha増の36haであり、内訳は、再造林が23haと64%を占めている。

造林樹種別の面積構成は、スギが39% (26ha)、ヒノキ8% (5ha)、マツ33% (22ha)、広葉樹20% (13ha) であり、前年度に比べマツ、広葉樹の割合がやや減少し、スギ、ヒノキの割合が増加している。

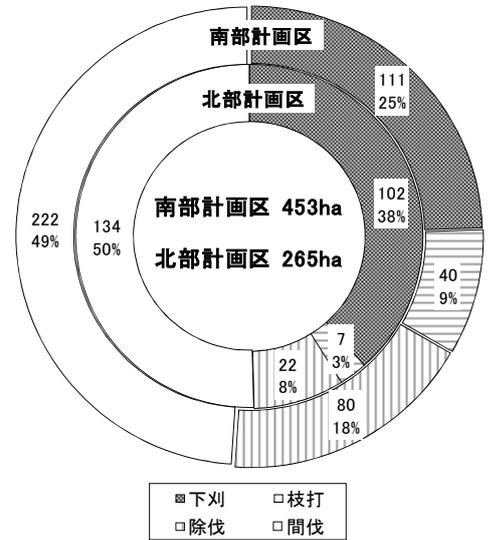
## (2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積は減少傾向—

### 間伐・保育面積の推移

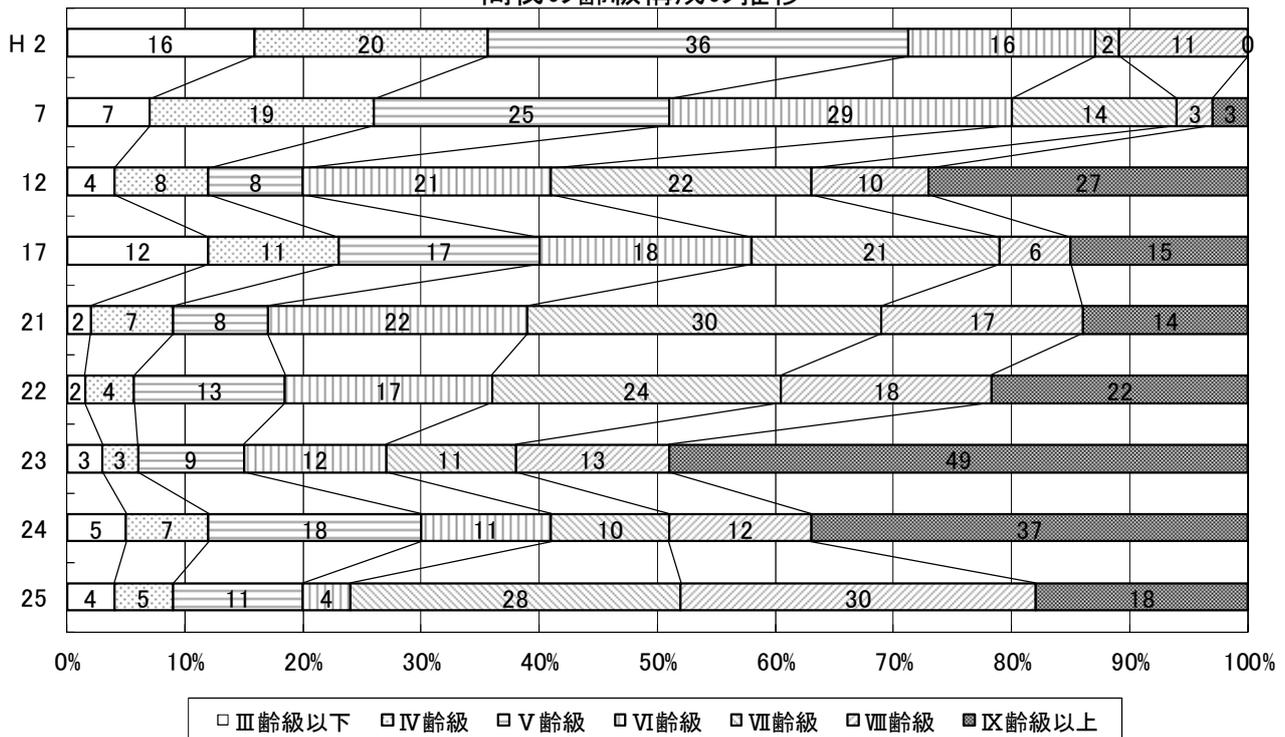


### 地域別間伐・保育面積 (ha)



単位: %

### 間伐の年齢構成の推移



本県の間伐及び保育の実施面積は、21年度に1,473haまで増加した後、減少の傾向にあり、25年度は前年度から303ha減の721haであった。種類別には、除間伐が前年度から259ha減少し458haとなっており、下刈も42ha減少の213haとなったため、保育面積全体としても大幅に減少した。

25年度の地域別傾向としては、北部計画区では前年度から155ha減少し265haとなった一方、南部計画区でも前年度から151ha減少し453haとなっている。種類別内訳は、北部計画区が間伐50%、下刈38%に対して、南部計画区では間伐49%下刈25%、となっている。

間伐実施面積の構成を年齢別にみると、25年度は前年度に比べⅨ年齢級以上の割合が減少したが、Ⅶ年齢級及びⅧ年齢級の割合が増加しており、Ⅶ年齢級以上が間伐全体の76%を占めるなど高齢化が進んでいる。